○ラン科植物の菌根茎の例（久内清孝）Kiyotaka HISAUCHI: Some instances of orchids bearing mycorhizoma

以前から佐々木一郎氏がサイハイラン *Cremastra appendiculata* Makino やシュンラン *Cymbidium virescens* Lind. に菌根茎を見る場合のある事実に注目されていた。サイハイランについては木村陽二郎氏が東亜植物図説3巻(1940) p. 271でこの問題にふれ，更に前川文夫氏も本誌32巻(1947)でこの問題をとりあげ，爾来この植物のある時期には菌根茎の存在することがわかっているが，それが，どんな程度のものか，形状のものか，実物をよく見たことがなかったところ，本年1月神奈川県鎌倉の山中で佐々木一郎氏が採られて示されたので，その写真をここに示して同好の一覧に供することにした。また同氏は本年3月東京都下，清瀬でシュンランについても，同様のものも得られたので，ここに併せてかかげることにした。シュンランの場合には，根茎的性状が極めて著しく，節や節間らしいところも見え，かつ分枝して，とうてい根とは考えられない，これが菌根か菌根茎かについては当然厳密なる形態学的考察を必要とするが，外見でもそれらしいと思われる。ここで注意すべきことは，かくの如き器官がいまだ老株において見つからず，いつも完全な個体として生活し始めたばかりのものにのみ見られることで，シュンランなどでは1,2茎のものに見られ，かつ茎端に存し，それより上部に根を見ることである。かかることは，これの発生後の経過形式をもの語るものと考えられる。ついては，同好各位の協力により，各地において，かかる実例の報告されんことを望んでやまない。恐らくラン科のいろいろなものに見られるのではなかろうか。

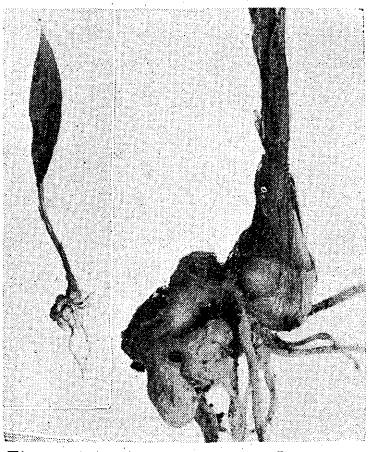

Fig. 1. サイハイランとその菌根茎 *Cremastra appendiculata* with mycorhizoma.

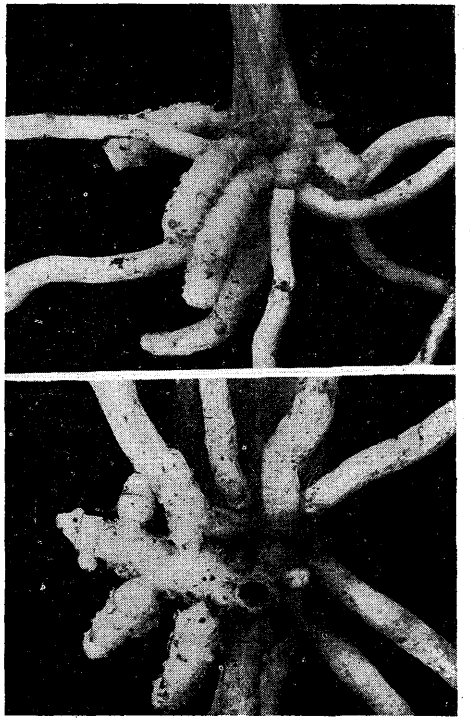

Fig. 2. 菌根茎を有するシュンラン *Cymbidium virescens* with mycorhizoma.